

# Fukushima NOW

Vo.3 (2017年2月発行)

当協会では、東日本大震災・東京電力福島第一原発事故の直後から広報紙「Gyro (ジャイロ)」の震災復興版として「がんばろう福島」を多言語で発行し、震災復興・復旧に向けた取り組みや国際交流・協力団体の活動等を国内外の皆様に伝えてきました。

平成28年度から「Fukushima NOW」と名称を変えて、福島の現在の様子や県内で暮らす外国出身者の声を中心にお伝えしています。

## Voices from Fukushima

### 工藤 ジョセフィーナさん

(フィリピン出身・郡山市在住)



郡山市内での生活は27年目となりました。母国よりも日本での暮らしの方が長くなり、何をすることも日本人の感覚に近くなってきているように感じています。日常生活で苦労することはなくなってきましたが、6年前の東日本大震災はとても動揺しました。幸い、郡山市内は大きな

被害はなかったので、程なく元の生活に戻ることができました。しかし、後に多くの方々が郡山市内の仮設住宅で避難生活を送っていることを知り、他人事には思えず、教会のボランティア活動に参加協力しました。

土・日曜日には郡山市内の教会のミサへ通っています。フィリピン出身者だけでなく、ベトナムやアメリカなどの外国出身者も参加しており、特に復活祭やクリスマスには、郡山市外からもたくさんの方が足を運んでくれます。同郷の仲間たちから見ると、私は母親や姉のような存在のようで、日本での生活や家族とのコミュニケーションについてよく相談されます。同時に、私自身も時々母国語で他愛もないことを話すことでストレスを解消していると思います。集まることのできる場所があって、そこで顔なじみになり親しくなれたら、もし何か困ることができてもひとりで抱え込まないのではないかと思います、みんなと日頃からまめに連絡を取るようにしています。



▲毎週ミサに通うフィリピン出身の仲間たち

### メルセデス・クリュースさん

(アメリカ出身・福島市在住)



2016年夏に来日し、福島市内の高校でALT(外国語指導助手)をしています。福島での新生活がスタートした日は、やや大きい地震が起こってとても不安になりました。また、電車やバスで行き先を間違えてしまったり、生まれ育った米国南部とは異なることがとても多かったので、しばらくはとまどうことばかりでした。でも、新しい土地での生活で感じる違和感は当たり前だと思えるようになり、今ではその違和感とうまく付き合い、逆に楽しめるようになってきました。



▲外国人ゲストとしてGCカフェに参加

国際交流イベントや日本の文化に触れる機会があれば積極的に参加し、知らなかった魅力に触れるようにしています。なかでも、福島の「食」は自分にとっても合っていて、私を元気にさせてくれています。特に桃や梨などのフルーツのおいしさには幸せを感じていて、福島のフルーツは大きくて甘くみずみずしいことを他県に住む友人や母国の家族に伝えています。東日本大震災後の福島に対し、いまだにマイナスイメージを持ったり、誤解している外国出身者は少なくありません。農産物に対しても同様です。福島へ来て、実際はそうではないということに気づきました。今後、スタディツアーなどで県内各地を訪れる機会があるので、福島の復興の状況をきちんと知りたいと思っています。

## Scenes of Fukushima

### 中南米移住者子弟の受け入れ

1月23日（月）から2月3日（金）まで、福島県主催の「中南米移住者子弟研修受入事業」が実施され、本県からブラジル、アルゼンチン、ペルー、ドミニカ共和国へ移住した人達の子孫5名が来日しました。研修生は、三春町の福島環境創造センター（コミュタン福島）、郡山市の福島再生可能エネルギー研究所などの施設や、南相馬市小高区などを視察し、本県の現状や東日本大震災の影響についての理解を深めました。また、着物の着付けやそば打ちなどの日本文化に触れる体験や、会津学鳳中・高生との交流、スキー・スノーボード体験なども行われました。なお、1月27日（金）夕方から30日（月）の朝まで一般家庭にホームステイしましたが、当協会の「多文化共生・国際交流ボランティア」の登録者の皆さんに協力していただきました。



▲スキーやスノーボードを初めて体験した参加者たち

### タイ向け福島PRフェイスブックの発信



▲「WeLove Fukushima」フェイスブックページ

映像やウェブ制作などを手掛けるタイのパニット・プーリワットさんは、今年度、福島県の委託を受け、フェイスブックページ「WeLove Fukushima」に、訪れた県内各地の観光地や四季折々の風景、郷土料理などの情報をタイ語で随時発信しています。タイ現地のフォロワーによる反響は大きく、今後福島を訪れるタイ人観光客の増加が期待できます。

<https://www.facebook.com/WeLoveFukushimaTH/>

### 救急時に必要な日本語を学ぶ

1月22日（日）、外国出身者を対象に、郡山市の郡山カトリック教会で、119番に通報するときに必要な日本語や心肺蘇生法などの救急処置について学ぶ講座を実施しました。フィリピンやベトナムなどの出身者12名が参加し、いざという時にはっきりと正しい情報を伝えることの大切さを学びました。



▲郡山消防署へ通報訓練をしている参加者

### 多言語による復興情報ポータルサイト「ふくしま復興ステーション」

福島県が運営するウェブサイト「ふくしま復興ステーション」では、福島県の復興状況や震災・原子力災害に関連する情報などを9言語（日本語・英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語・イタリア語・スペイン語・ポルトガル語）でお知らせしています。また、「福島県放射能測定マップ」により、県内の環境放射線の各種測定の結果をお知らせしています。

ふくしま復興ステーション <http://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/>



## FIA Information

### ○外国出身者のための生活相談窓口のご案内

当協会では、外国語で外国出身者からの生活相談に応じています。

- 英語・中国語・日本語 毎週火曜日～土曜日 9:00～17:15
- 韓国語・タガログ語・ポルトガル語 木曜日 10:00～14:00  
※第4・5木曜日は事前予約が必要です。

電話：024-524-1316(相談専用)  
E-mail：ask@worldvillage.org (相談専用)

### 発行者

(公財) 福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町2-1  
福島県庁舟場町分館2階  
TEL 024-524-1315 FAX 024-521-8308  
E-mail info@worldvillage.org  
URL <http://www.worldvillage.org>

